

いずみさの教育

NOW

問合先
学校教育課

「防災教育」について

令和4年9月に内閣府が実施した「防災に関する世論調査」によると、「ここ1～2年ぐらゐの間に自然災害について家族や身近な人と話し合ったことがある」と答えた割合は61.4%でした。毎年のように大きな自然災害が発生することで「災害大国」ともいわれる日本において、災害への備えを「特別なこと」として取り組むのではなく、生活の中であたり前のこととして取り組むことが必要となつてきます。

市内の学校においては、地域の安全に役立てるための知識として消防署や消防施設などを社会科で、自然災害の発生メカニズムを理科や総合的な学習の時間で、また安全な行動を身に付けさせるため、こういったときにけがをしやすいのか、そのためにどんなことに気を付けたらよいかなどを体育や特別活動の時間など、様々な教育活動を通して、環境教育や安全教育などの一環として行う「防災教育」に取り組んでいます。

また、本市独自の取組として、

平成28年度より、子どもたちが日常から防災と減災に深い関心を持ち、意識を高め、自ら考え判断し行動できる「防災力」を身につけることを目的として、市立小学校の4年生全員を対象に「ジュニア防災検定」を実施しています。検定は、筆記試験・家族防災会議レポート・防災自由研究の3つから構成され、子どもたちの「防災力」を養うとともに、家族で防災に取り組む機会を提供しています。

さらに、消防庁のプロジェクトを活用し、東日本大震災の体験者を市内小・中学校に招き、災害時の活動体験および防災についての講演をしていただき、災害対応力の強化や防災意識の向上を図っています。

今後も、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて的確な判断の下、自らの安全を確保するための行動ができ、社会貢献していこうとする態度を育てる「防災教育」を進めていきますので、ご理解ご協力をお願いします。

学校園紹介

1年生と昔のあそび
～中央小学校～

1年生は地域の人と昔のあそびを体験しました。コロナ禍の影響で5年ほど取組が途絶えていましたが、今年度復活して、本当にうれしくありがたく感じました。



当日20人を超える人が来てくれ、普段は交差点やあぶない十字路で子どもの見守りをしてくれている人たちもいました。はごいた、竹とんぼ、おはじき、けん玉、あやとり、お手玉、ビー玉、折り紙など、地域の人々が待っているブースに4、5人の子もたちで回りました。子どもたちは、はじめてするあそびもあり、技が必要なあそびには苦労していましたが、子どもも地域の人、ニコニコ顔で楽しそうでした。時間が



が足らず全部回り切れなかったグループもありました。最後に体育館で、お礼の会もしました。子どもたちは歌を歌い、お礼の言葉とともに、松ぼっくりで工作したクリスマスツリーを渡しました。地域の方の笑顔が印象的でした。

学校は、多くの地域の人に見守られて、安心して活動することができます。地域の人とのつながりは、学校以外でも多くあります。よい出会いを大切にして、今後もこの取組は続けていきたいと考えています。

2学期の行事について
～末広小学校～

【交通安全教室】

泉佐野警察署と泉佐野市役所の人を招き、交通安全教室を実施しました。低学年は警察の人から道路の正しい歩き方について、高学年は自転車の安全な運転についてお話を聞きました。お話の後は運動場に描かれた模擬道路を使って、実際に歩いたり自転車の練習をしたりしました。



【校内音楽会】

「感じよう！楽しもう！つながろう！」をテーマに保護者や地域の人を招いて合唱や演奏を披露しました。みんなで息を合わせて真剣に取り組む姿に会場からは温かい拍手が送られていました。司会も自分たちで行い、緊張しながらもやり遂げた子どもたちの表情は達成感に溢れていました。音楽で学校と保護者と地域が繋がった時間となりました。

